



新しい年度の始まりに

平成30年度が始まって2週間。新たな場面でスタートをした方、リスタートをした方、様々な思いが錯綜する4月ですね。今年度もよろしく願いいたします。

大館市立栗盛記念図書館に名称を変更して1年がたちます。電話で「栗盛記念図書館の」と名乗って、普通にお世話になっております、の挨拶の後でお目当ての方を指名したときに「大変申し訳ありません」と図書館名を再度聞かれることがあります、市内での話です。そのたびにまだまだ認知度が低いなあと感じ、反省しております。

そんな図書館ですが、①地域の中で活かされる図書館として地域の機関と連携します。②飛び出す図書館司書を目指し、学校図書館への支援・連携を一層進めます。③市民一人ひとりを利用者にとらえ、足を運びやすい図書館を目指し、人と人がつながる場を提供します。④多様なニーズに対応する図書館作りを目指します。の4つを基本概念として事業を進めて参りたいと思いますので、よろしく願いします。

❖多くのボランティアを募集しています

今年度計画している事業は39事業、定期的におこなっている事業もありますので、もしかすれば毎週何かしらのことを図書館でおこなっているのかもしれない。新しい事業も計画していますのでご紹介します。

まず、ボランティアの募集です。図書館パートナーズとして、既存のボランティアの方々も含め、「読み聞かせ部門」「イベント部門」などに登録していただき、イベント部門では主体的に事業を企画・運営していただきたいというものです。

ボランティアの養成ということでは「ゆめ拓く男塾～もうひとはな咲かせるために～」でシニアの男性を対象として講座を、また子ども達に楽しんでもらいながら「おはなし会に活かすパワーアップ講習会」で既存の団体の会員さん、やってみたいという方も含めてのパワーアップできる講座を、絵本作家さん、読書アドバイザーの方々を講師に、いずれも中央からの講師をお招きして実施します。

❖『赤い鳥』創刊100年に寄せて

今年は『赤い鳥』創刊100年を記念した展示会があきた文学資料館で開催されますが、鈴木三重吉直筆の書簡を含め、栗盛記念図書館でも同じ内容で展示会を開催します。これは、高橋忠一氏の働きかけで鈴木三重吉の大館での講演が実現したこと、高橋家のご厚意で展示提供していただいたことによるものです。

❖ 図書館を利用しにくい年代の方々のために

お仕事をされていると、平日 19 時まで開館していてもなかなか図書館への足は遠のいているという方のために、今年度はまちゼミへ参加し「図書館の裏側潜入ツアー」を計画しています。普段入ることのない閉架書庫などの説明もしますが、図書館の裏側をお見せし、サプライズな計画もあります。

もう一つ、子ども達には『おはなし会』でたくさん絵本、本に接する機会がありますが、大人には？というわけで『おとなの時間朗読会』を計画しています。内容は、ひ・み・つ。乞うご期待です！

❖ 図書館が利用しにくい方のために

一定の条件を満たせば郵送で本を貸し出し、郵送で返却できます。これってずっとまえからある制度なのですが、意外と知られていません。そんな形で借りたいという資料(大活字本など)が少ないのも実情ではありますが、充実できるように努力いたしますので、是非、職員に一声、あるいはお電話ください。

図書館パートナーズの募集は栗盛記念図書館が窓口です。電話番号 4 2 ・ 2 5 2 5。随時追加募集はしますが、4 月中で一区切りとさせていただきます、お早めの申込をお待ちしています。(保)